

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス ふぁーすと・すてつぷ			公表日		2026 年 2 月 2 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		塾スタイルのため、現在の訓練内容であれば十分である。	曜日によっては利用状況が高く、個別に対応しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○			利用状況や個別のニーズに応じた支援をするためにも今後も検討が必要と考えています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		事業所内がバリアフリー構造になっている。掲示物や案内板、注意事項などイラストにて視覚的に伝わるようにしています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の掃除、消毒、整理整頓を心がけています。季節に合わせた掲示物にしています。夏は室温を管理しエアコンで温度調節しています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウンや集中して課題や宿題に取り組みたい時は、個室を準備し対応しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々のミーティングや検討会を職員全員で実施しており、改善に努めています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者アンケート結果を職員間で共有、話し合いの時間を設け、改善に努めています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		月1回職員会議を実施しています。毎日、振り返りを実施し活動内容を含め改善に努めています。	日々、疑問に思ったことや改善点などを提案しやすい職場環境づくりを心がける。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者委員会は実施しておりません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		R7,1月にホームページにて公表。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者、利用者との面談でニーズを聞き取り実際に体験をして頂き、その様子を含め作成しています。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々の関わりの中での気づき、保護者からのお話をもとに検討会議を行い、作成しています。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		活動の中での声掛けの工夫や、支援方法、気になったことを振り返りの中で常に確認するよう努めています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツールの使用はないが、職員間でこどもの行動を把握・共有しています。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員間で協議、試行錯誤を繰り返し、利用者の特性に合わせて、個別活動と集団活動を取り入れて、毎月カリキュラムを作成しています。	マンネリ化を防ぎ、今後も保護者より要望があったこと「これができるようになってほしい。」を活動に取り入れていきます。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		長期休みには、外出活動で生活力を身につけられるよう、事業所見学で卒業後に繋がるような活動になるよう努めています。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日のカリキュラムの内容・役割を確認、及び前日の注意事項を含め、ひとりひとりにあった内容になるよう確認を行っている。利用者同士の関係性やスキルの違いに合わせて、毎日の座席を決めています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎日、その日のカリキュラム内容や利用者の状況の振り返りを行い、次の日の活動に繋がっています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		その日の様子や気づきをお互いに共有し、ケース記録に入力しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者の方だけではなく、できるだけ利用者自身への聞き取りも実施しています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動内容で、プリント課題や創作課題を自分で選択することから、将来の進路選択まで幅広い意味で自己選択の力をつけることができるよう支援しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に児童発達支援管理責任者が出席しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関との連携に努めて参ります。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎時に先生と子どもの情報共有を行っています。毎月の予定表を保護者より提出して頂いています。緊急時や送迎の変更等がある場合は連絡が取れる体制を整えています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	中、高校生を対象としており、就学前ではなく、小・中学校との情報共有を行うよう努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		学校での移行支援会議に参加。当事業所は、就労支援事業所B型も併設しており、卒業生が、就労に移行しているため、情報提供し支援に繋がっている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		中高生を対象とした事業所ではあるが、今後は、研修などを検討し自己研鑽に努めて参ります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		年1回の地域のお祭りへの参加のみとなっています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		児童部会に参加し、情報交換しています。今後、中・高校生となりレベルアップを希望されている方への情報提供をしています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援の内容や活動時の様子を連絡帳にて毎回保護者と一緒に振りかえりながら、発達の状況や課題について確認しています。	自宅での様子などの情報交換として、今後の支援に役立てていきます。
保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	必要に応じて個別に連絡・面談を実施し、関わり方などのアドバイスを行っています。	基本となるペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムの実施はできておりません。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学、契約に重要事項説明書や契約書の説明を通して、運営規定、支援内容、利用者負担について伝えています。	少しでもわかりやすく説明できるよう心掛けています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		アセスメント以外にも見学や体験の際に、簡単な聞き取りと様子を把握するように、また利用者本人にも日頃の活動の関わりの中で気持ちを取り取るようにしています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		活動の様子もお伝えしながら計画書の説明をしています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		随時、相談に応じています。必要に応じて関わり方のアドバイスを行っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		今後の課題のひとつです。どのような機会にしていけるか検討していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情の対応体制を整備しています。職員間での情報共有を密にし、小さなことも見逃さないように周知し、苦情があった際は検証、検討し対応できるようにしています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月お便りで活動の様子とカリキュラム表を作成し配布しています。フェイスブックにて活動の様子を発信しています。 ご契約時に、メール登録の同意を得て緊急時連絡や情報共有のため利用しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報管理規定に基づき管理しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		イラストでの視覚支援、選択肢を準備し分かりやすく工夫し支援しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		事業所としての行事が少なく、今後の検討課題です。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し玄関で閲覧していただけるようにしています。内部研修を実施し周知徹底を行っております。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、定期的に避難訓練を実施しています。様子をお便りやフェイスブックにて発信しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメントシートに記録して頂き、確認。 てんかん発作については、医師の指示書の提出にご協力頂いています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アセスメントシートに記録して頂き、確認。 必要時は医師の指示書の提出にご協力頂き、全職員へ周知徹底しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		計画の作成、研修・訓練を行っています。 職員間で安全管理について情報共有しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		おたよりにてお伝えしています。 メール登録にご協力頂き、年1回非常時情報伝達訓練を実施しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎日に振り返りにて、確認・検討しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		マニュアルを策定し、内部研修を実施し周知徹底を行っています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束を必要とされる利用者はおりませんが、利用開始時に十分な検討を実施し、身体拘束を選択しない方向で検討しています。	